

杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて
杉戸を再発見

第74回

郷土の偉人・服部北蓮③

北蓮は、昭和二十年（一九四五）四月一日、埼玉師範学校教授となり、そこで終戦を迎えます。敗戦により社会が大きく変わった戦後の同二十一年七月三日には教員資格と判定され、同二十四年一月二十三日大学教官資格審査に合格します。この間、北蓮は、東京芸術大学主催書道公開講座の講師も務めています。そして、同二十五年四月に埼玉大学助教授となりました。同二十七年四月から十一月まで文部省国内留学生として国学院大学教授岩橋小弥太について古文書を学び、同二十八年には文部省主催の近世史料取扱講習会を受講するなど、北蓮は刻苦勉励の日々を続けていきます。このように北蓮の興味関心は、書道そのものだけではなく、隣接分野にまでおよび、そのための努力を怠ることは生涯ありませんでした。

昭和三十二年には、埼玉大学教育学部教授となり、同四十年に定年退職しますが、その後上智大学や学習院大学で教鞭をとり、二



▲服部北蓮書
(資料提供：松原巖氏)

（社会教育課 町史・文化財担当編）

松学舎大学でも教授を務めています。その間、北蓮の薫陶を受けた者が多かったのはいうまでもありません。埼玉県内を中心として、その門下からは、国語教師や書道教師が数多く輩出したのでした。換言すれば、北蓮が教育界へ与えた影響は、直接的にも間接的にも、大なるものがあつたといえるでしょう。

また、北蓮の著書としては、『日本書道文化史』、『梧竹堂書話講義』等がありますが、石碑等への揮毫を数多く手がけているのも彼の功績の一つです。

そうした業績が評価され、昭和四十年には、埼玉県文化功労者として表彰され、勲三等旭日中綬章を受章しました。

北蓮は、昭和六十一年五月二日に八十七歳でその生涯を閉じますが、書を究めようとしている者へ残した彼の言葉は、「いそぐな」です。それは、書の道で年功と錬磨が必要なることを説いたものですが、どの世界にもあてはまるシンプルな金言でもあります。（おわり）

今だからこそ実践！！

「超簡単 おうちで楽しく介護予防」を作成しました

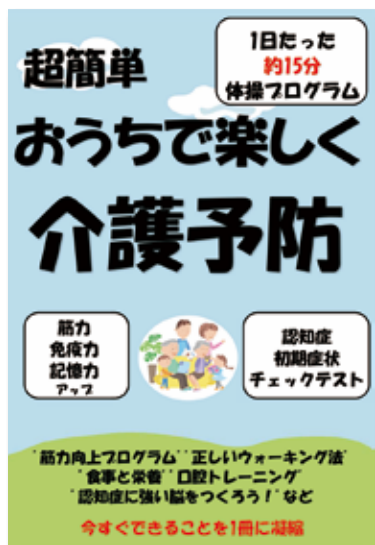
問合せ 高齢介護課

地域包括支援センター担当
内線302・303

新型コロナウイルス感染拡大により、家の中で過ごす時間が増え、高齢者の皆様も体を動かす機会が減ってしまっているのではないのでしょうか。この「動かない（生活不活発）」状態が続くことは、高齢者にとって健康への影響が心配されます。

そこで、家で過ごすことの多い今だからこそ取り組んでいただきたい、「超簡単 おうちで楽しく介護予防」を作成しました。ぜひ活用していただき、イキイキとした生活を続けていきましょう！

配布方法 高齢介護課窓口で配布



■介護予防の一部を紹介■



自宅でもできる簡単な運動を紹介しています。その他、栄養、口腔ケア、認知症予防等の自宅でできる取組みを紹介しています。



取組みを記録できるチェック表付きで、日々の成果が実感できます！バランスよく取り組んでみましょう！



UD FONT
by MORISAWA

ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ

